

高橋まさかず 市長活動報告

VOL.13

■発行日：2025年1月
■発行元：高橋まさかず後援会



秦野を 変える 実現力。



二期目任期の最終年を迎えて

明けましておめでとうございます。

皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
日頃より格別のご支援ご指導を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

平成30年1月31日、皆様方の力強いご支援により、市長に就任させていただき、早いもので、二期目任期も残り一年余となりました。この間、皆様にお約束した「5つの誓い」を中心に、市政の様々な分野の課題解決と、次の時代を見据えたまちづくりに、全力を挙げて取り組んでまいりました。

今年は、市制施行70周年という節目の年です。『みんなであつなぐ 未来のHADANO』をテーマに、記念式典をはじめとする「全国報徳サミット」「名水サミット」などの記念事業を通じて、「ふるさと秦野」への誇りと愛着を深めるとともに、その魅力を市内外に発信してまいります。

また、令和8年度から5年間の市政を推進する指針となる「総合計画はだの2030プラン後期基本計画」の策定作

業を本格化させる年でもあります。全国的に人口減少、少子・超高齢社会が本格化する中、秦野市では令和3年以降、転入者が転出者を上回る「社会増」の状態が続いています。この流れを将来にわたり持続させるためには、子育て世代の若い力が不可欠です。このことから、「女性と子どもが住みやすいまちづくり」に取り組み、結婚・妊娠・出産から子育てまでを切れ目のない支援により、地域で安心して子育てができる環境づくりを進めます。

同時に、令和9年度の新東名高速道路全線開通と秦野丹沢サービスエリアの開設を見据えた「表丹沢の魅力づくり」と「小田急線4駅周辺のにぎわい創造」の取り組みを一体的に進めることにより、「全国屈指の森林観光都市」の実現を目指します。

本年が皆様にとって実りある一年になりますことを心から願うとともに、変わらぬご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。新年にあたっての挨拶とさせていただきます。

秦野市長 高橋 昌和

HAPPY
NEW YEAR
2025

うるわしき秦野のさらなる飛躍にむけて

明けましておめでとうございます。

会員の皆様をはじめ多くの市民の皆様には、日頃より高橋まさかず市長と後援会活動に対し、温かいご支援ご理解を賜り誠にありがたく感謝申し上げます。

二期目の残りの一年を迎え、高橋まさかず市長には十分に健康に留意され残された仕上げの任期を頑張って頂きたいと思います。

うるわしき故郷・秦野の住環境は整ってまいりましたが、新東名高速道路の開通を目指して一層の整備・発展が求められる時節となっています。こうした状況の中、仲間の確かな信頼関係の輪を拡げ後援会活動を継続することが何より大切なことと思います。

皆様には、さらなるお力添えをお願いすると共に、本年が実り多い幸福な一年となりますようお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。

高橋まさかず後援会 会長 三杉 克篤



進んでいます! 秦野の『都市基盤整備』!!

秦野駅北口の周辺まちづくり

秦野市の中心市街地である秦野駅北口周辺では、市民や企業、行政などが同じ方向を目指して、まちの将来像を共有し、にぎわいのあるまちづくりに取り組むため、「秦野駅北口周辺にぎわいのあるまちづくり会議」を組織し、令和5年11月に「秦野駅北口周辺まちづくりビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、「一水と歴史がつなげる未来—しなやかな街なか暮らし」という将来像を掲げ、駅前の都会的な利便性と、水辺や緑に包まれ、調和のとれた心地良い生活を送るための舞台として、より多くの方が訪れ、暮らすまちづくりを目指しています。

現在、拡幅整備が進んでいる県道705号の沿道において、拡幅整備効果をまちづくりに発揮させるべく、周辺の権利者の皆さんの意向を伺いながら、土地利用の検討を進めています。

その一つが、多世代交流の場の整備です。

若者たちが元気に楽しく活動できる居場所づくりをはじめ、市民がまちづくりに関わりたくなるきっかけを提供する市民活動の拠点、子育て世代、高齢世代がちょっと寄って、ほっとできるようなまちの拠点を整備することを想定しています。

もう一つが、商業・業務系施設の誘致です。

商業地内にある市有地とその周辺を一体的に活用できるよ

うに整理し、働く場としてのオフィス、学びの場としての教育機関、来訪者をお迎えするホテルなどを誘致したいと考えています。

さらに、水無川沿いでは、河川敷と道路などの公共空間を秦野ならではの「居心地の良い人のための空間」として今まで以上に活用するため、交通規制により歩行者天国となった場所で飲食や音楽などが楽しめる空間をつくり、来場者の動向や交通規制の影響等を調査する社会実験を繰り返しながら検討しています。

これらのまちづくりの実現可能性を高めるため、現在、「中心市街地活性化基本計画」の策定に取り組むとともに、法に基づく内閣総理大臣の認定に向けて、国の関係機関と調整を進めています。



実証実験の様子

秦野駅南口、戸川地区、秦野中井IC周辺の土地区画整理

一日の乗降客数が約3万6000人と市内で一番利用客の多い秦野駅の南口周辺では、都市計画道路尾尻諏訪原線を含む土地区画整理事業を施行しており、令和9年度の工事完了を目指しています。駅周辺へのアクセス機能の強化や沿道住宅地の利用増進を図ることで、秦野駅南口周辺の活性化につながると期待しています。

また、現新の東名高速道路という2つの大きなインフラを最大限に活用するため、東名高速道路秦野中井インターチェンジ周辺の西大竹地区と、新東名高速道路秦野丹沢スマートインターチェンジ周辺の戸川地区の2か所で、組合施行の土地区画整理事業によ



秦野中井インターチェンジ

る産業系のまちづくりを進めています。

これにより、産業用地を創出し、優良な企業に立地していただくことで、雇用や市内企業への受注機会の増加など、地域経済に様々な好循環や波及効果をもたらし、本市の移住・定住人口の増加につながることを期待しています。

加えて、現新東名高速道路をV字でつなぐ国道246号バイパスが一部事業化され、用地買収が進められています。これが全線開通すれば、慢性的な国道246号の渋滞が緩和されるとともに、災害時の緊急輸送路の確保や本市の広域交通ネットワークの形成、産業振興に大きく寄与することが期待されます。引き続き、全線早期事業化・開通を国に強く働き掛けていきます。



尾尻諏訪原線

使えば使うほど地域が元気になるお金

OMOTAN コイン 秦野市電子地域通貨



現在プレミアムポイントバックキャンペーン中!
個店なら40%還元・大型店なら20%還元に大幅アップ!

OMOTANコインは、秦野市内の加盟店で使えるキャッシュレス決済です。人口減少、近隣への大型店の進出、ネットショッピング利用者の増加などによる、収益の市外流出に歯止めをかけるとともに、市民・事業者・行政が一体となって、地域の課題を共有し、地域経済の好循環と持続可能な地域づくりに、みんなで取り組むことを目的としています。

ポイント還元実施期間: 12月1日から1月31日までの2ヶ月間 ※キャンペーン期間以外は1%のポイント還元になります。

秦野の未来を拓く 子育て・教育プロジェクト

温かくておいしい中学校給食

はだのっ子キッチン



令和3年12月に中学校完全給食がスタートし、4年目に入りました。現在、学校給食センター（愛称：はだのっ子キッチン）では、1日約4,200食

を全中学校9校に配送しています。はだのっ子キッチンでは、公募市民等に試食会や見学会を実施し、施設内通路から安全・安心な調理方法を見学できるほか、通路掲示板に食育や生産者の情報を掲示することで、中学校給食への理解を深めていただいています。

給食開始に当たっては、中学校にエレベーターを新設したほか、給食費公会計制度についても、中学校給食は開始当初から、小学校給食は令和4年度から導入し、教職員や保護者の負担軽減を図っています。食材料費の高騰が続く中、子育て支援の一環として保護者に負担の増加を求めることなく、高騰相当分を支援することで、給食の質と量を維持しています。

給食開始後の生徒アンケート調査では、7割以上の生徒からおいしいという感想が寄せられ、試食会に参加した保護者や地域の方々などからも、温かくておいしいなどの意見をいただいています。

令和3年12月に中学校完全給食がスタートし、4年目に入りました。現在、学校給食センター（愛称：はだのっ子キッチン）では、1日約4,200食

東海大学健康学部のご協力により、中学校給食の開始前後に生活習慣病の要因となる塩分濃度を調査した結果、適塩給食の取り組みの効果も確認できました。

秦野市農業協同組合や秦野商工会議所との連携により、新鮮で安全な食材を提供するため、地場産物を利用した地産地消及び食育の推進と地域経済の活性化に努めています。これにより、市内の生産者や事業者からの調達率が約8割、目標としている野菜の地場産率50%を達成しています。

地場産品等を活用した献立として「ふるさと秦野食育DAY」を随時開催し、特産品である千村の八重桜を使った桜御飯やカップケーキ、地場野菜を活用した夏野菜カレー、秦野産小麦入りコッペパンなどを提供することでふるさと秦野を愛する心の醸成に努めています。



「ふるさと秦野食育DAY」
夏野菜カレー
秦野産小麦入りコッペパン

今後とも、新鮮な栄養価の高い地場産物を多く使用した安全・安心でおいしい生徒が喜ぶ献立を工夫するとともに、生産者への感謝の気持ちを育むなど、より一層食育の推進を図り、地場産率のさらなる向上と地域経済の活性化につなげたいと思います。

産科等医療体制の充実

アクアベルクリニック



院しました。これまで、近隣自治体や里帰り出産を含め、累計で408名の赤ちゃんが誕生しました。同院での分娩数は当初の想定よりも早いペースで増加しており、最近では月平均40名から50名で推移しており、市民が6割を占めています。

同院とは、「女性とこどもが住みやすいまちづくり」のための連携協定を締結しており、その事業の一つとして、昨年1月から宿泊型の産後ケアを開始しました。また、新生児の健康診査の実施に当たっては、秦野赤十字病院や東海大学病院から小児科医師を派遣していただくなど、地元の医療機関との連携体制が構築されています。これにより、現状把握と情

本市において最重要課題であった、市内で出産できる環境整備に取組み、一昨年11月に、念願の分娩施設である産婦人科医院「アクアベルクリニック」が開

報共有を図り、医師会等関係機関に相談しながら、子育て中の市民が安心して受診することができます。

また、小児救急を含め、秦野赤十字病院が担う二次救急医療が地域医療連携の中で十分な役割を果たすことができるよう、市としても必要な支援を行っていきます。

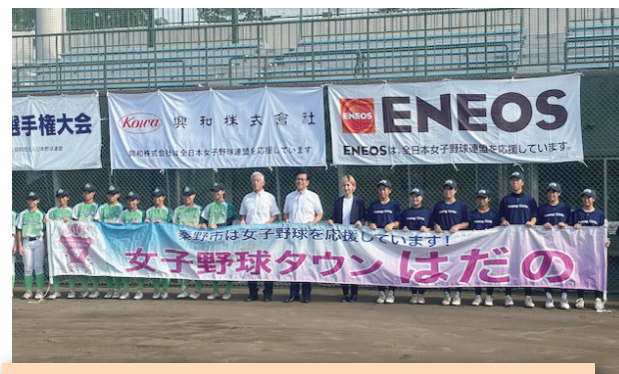
なお、少子化対策として、女性の生涯を通じた医療体制の整備も重要です。産婦人科が担う分娩以外の思春期や更年期の健康課題への対応、不妊、婦人科疾患等幅広い分野があるため、今後、医療機関ごとの特性を活かせるよう、関係者間で協議する場を設け、円滑な連携を図っていきたいと考えています。



高橋まさかず市長活動報告



[7月15日]いのちの森づくり(タブノ木植樹祭)



[7月27日]全国女子中学生硬式野球選手権大会



[8月3日]日名水フェスティバル・学生団体E4



[9月3日]マイナ緊急実証実験視察



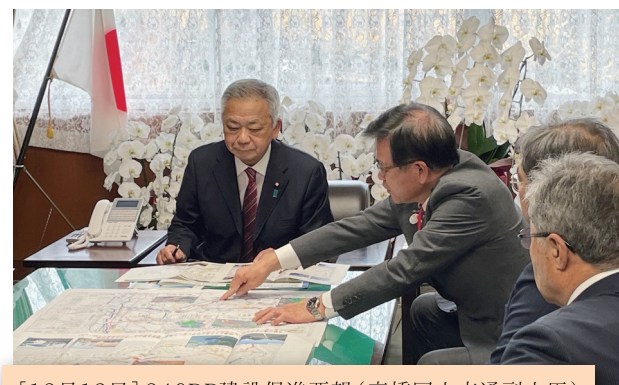
[9月14日]パリ五輪レスリング 金メダリスト清岡選手祝勝会



[11月9日]全国削ろう会秦野大会



[12月13日]246BP建設促進要望(斎藤財務副大臣)



[12月13日]246BP建設促進要望(高橋国土交通副大臣)

